

坂本 勉 先生
御略歴および御業績

2014

はじめに

坂本勉先生は、本年（2014年）7月23日、膵臓がんと御闘病の末、満60歳でお亡くなりになった。昨年4月に手術のために入院されるとの知らせを受け、大変驚いたが、その後、一旦は回復され、本年2月には皆で還暦のお祝いをしたばかりであった。教え子をはじめとし、先生の御薫陶を受けた者たちには未だ信じがたいことである。

先生は、日本の心理言語学研究のパイオニアとして、私たちに研究のおもしろさ、楽しさ、そして少しの辛さを教えてくださった。ここでは先生の御業績を振り返る。

先生がニューヨーク市立大学に留学され、大学院で研究なさった最大の関心事は、「空主語文の処理」である。「太郎が花子に東京に行くことを告白した。」では、「太郎が東京に行く」解釈が優勢である。その一方で、「太郎が花子に東京に行くことを命令した。」では、「花子が東京に行く」解釈が強くなる。それぞれの文で、誰が東京に行くかは明示されていない。この明示されていない主語のことを空主語と呼ぶ。そして、二つの文に共通する「太郎が花子に東京に行くことを」までを読んだ時点で、日本語話者は、どんな情報を参照して「東京に行く」人は誰かを解釈しているのかという問いに対して、認知心理学的な実験手法を用いた実証的な御研究を進められた。

脳波を用いた言語理解研究を始められたのも坂本先生が先駆けである。「柔らかい色」のように、異なる感覚モダリティ（この例だと、触覚+視覚）に属する語を組み合わせた表現を共感覚表現と呼ぶ。しかし、感覚モダリティの組み合わせには制限がある。触覚と視覚の組み合わせであっても、「赤い手触り」のように、視覚に関わる形容詞と触覚に関わる名詞を組み合わせると途端に容認できなくなってしまう。この感覚モダリティの非対称性を我々の脳がどのように扱っているのかについて、N400という事象関連電位成分に基づいた考察を行われ、そのお仕事は *Brain and Language* に掲載されている。

また、先生は学生が自由に研究をできる環境を作ってくださっていた。学生の拙い考えを尊重して下さり、「やってみなはれ」という力強い後押しをしてくださった。通称「坂本組」と呼ばれる研究室では、大学院生、学部学生に多くの経験を積ませてくださった。

先生は、言語理解以外にも、詩学や言語哲学にも御関心があった。これらをまとめると、坂本先生は、「ヒトはどうやって言語を使うか？」という問いを常に考えていらっしやったのではないかと拝察できる。もう、先生が玄界灘で釣り上げられた新鮮なお魚をいただくことはできないし、言語に対する先生のお考えを伺うこともできない。大変寂しいことである。しかし、後進の我々の拙い考えはきっと先生に届くだろうと思う。残された我々は、先生がおひげをさすりながら、ニコニコと話を聞いてくださる姿を思い浮かべながら、一層の邁進をしていきたいと思う。

この目録を、日本語の心理言語学研究、特に言語理解研究がこれまでに歩んで来た道、また、今後歩むべき道を考える一助としていただければ大変幸いである。

2014年9月 大石衡聴・村岡諭・安永大地 記す

— 御略歴 —

昭和 29 (1954)年 2 月 26 日生

学歴

昭和 47 (1972) 年 3 月 31 日

長崎県立 大村高等学校 卒業

昭和 48 (1973) 年 4 月 1 日

京都大学 文学部 入学

昭和 53 (1978) 年 3 月 31 日

同上 言語学専攻 卒業

昭和 53 (1978) 年 4 月 1 日

京都大学大学院 文学研究科 修士課程 言語学専攻 入学

昭和 56 (1981) 年 3 月 31 日

同上 修了

昭和 56 (1981) 年 4 月 1 日

京都大学大学院 文学研究科 博士後期課程 言語学専攻 進学

昭和 59 (1984) 年 3 月 31 日

同上 単位取得満期退学

昭和 59 (1984) 年 9 月 1 日

ニューヨーク市立大学 大学院博士課程 言語学専攻 入学
(フルブライト留学)

平成 1 (1989) 年 3 月 31 日

同上 単位取得満期退学

取得学位

昭和 53 (1978) 年 3 月 31 日

文学士 (言語学) 京都大学

昭和 56 (1981) 年 3 月 31 日

文学修士 (言語学) 京都大学

平成 3 (1991) 年 10 月 1 日

Ph.D. (Linguistics), City University of New York

職歴

平成 1 (1989) 年 4 月 1 日

神戸松蔭女子学院大学 国文学科 専任講師

平成 4 (1992) 年 10 月 1 日

九州大学 文学部 助教授

平成 12 (2000) 年 4 月 1 日

九州大学大学院 人文科学研究院 助教授 配置換

平成 13 (2001) 年 4 月 1 日

九州大学大学院 人文科学研究院 教授

— 御業績 —

博士論文

Sakamoto, Tsutomu (1991) *Processing Empty Subjects in Japanese: Implications for the Transparency Hypothesis*. Ph. D. Dissertation. City University of New York.

著書

編集

1. Sakamoto, Tsutomu (2007) *Communicating Skills of Intention*. Tokyo: Hituzi Syobo Publishing.

単著

1. Sakamoto, Tsutomu (1996) *Processing Empty Subjects in Japanese: Implications for the Transparency Hypothesis*. Fukuoka: Kyushu University Press.

分担執筆

1. 坂本勉 (1995) 「統語解析」 大津由紀雄 (編) 『認知心理学 3 言語』 pp. 145–158. 東京大学出版会.
2. 坂本勉 (2000) 「言語認知」 行場次朗・箱田裕司 (編著) 『知性と感性の心理—認知心理学入門』 pp. 153–169. 福村出版.
3. 坂本勉 (2007) 「共感覚表現の脳内処理モデル—脳波 (事象関連電位) による研究」 楠見孝 (編) 『メタファー研究の最前線』 pp. 285–306. 東京: ひつじ書房.

共著

1. 郡司隆男・坂本勉 (1999) 『言語学の方法 現代言語学入門 第1巻』 岩波書店.
2. 大津由紀雄・坂本勉・乾敏郎・西光義弘・岡田伸夫 (1998) 『言語科学と関連領域: 岩波講座 言語の科学第11巻』 岩波書店.

書評

1. 坂本勉 (1981) 『現代ソビエト心理言語学』 ア・ア・レオンチェフ編 明治図書. 月刊『言語』, 10(6), 130–131. 大修館書店.

2. 坂本勉 (1984) 『文化記号論への招待—ことばのコードと文化のコード』池上嘉彦・山中桂一・唐須教光 著 有斐閣. 『季刊人類学』, 15(2), 251–258.
3. 坂本勉 (1995) 『人間の言語情報処理』阿部純一ほか著 サイエンス社. 月刊『言語』, 24(1), 139. 大修館書店.
4. 坂本勉 (1996) 『岩波講座認知科学 7 言語』橋田浩一ほか著 岩波書店. 『認知科学』, 3(1), 110–112.
5. 坂本勉 (1998) Lyn Frazier and Charles Clifton, Jr. (1996) Construal. Cambridge, Massachusetts: The MIT Press. x+230pp. 『英文学研究』, 74(2), 261–265.
6. 坂本勉 (2001) 『ことばはどこで育つか』藤永保著 大修館書店 月刊『言語』, 30(6), 130–131. 大修館書店.

招待講演

1. Sakamoto, Tsutomu (1991) The Processing of Empty Subjects in Japanese: Its Relation to Transparency Hypothesis. International Symposium on Japanese Syntactic Processing, Duke University.
2. Sakamoto, Tsutomu (1992) Theoretical and Experimental Considerations on Some Empty Subjects in Japanese. Workshop on the processing of language and speech in Japanese, Waseda University.
3. Sakamoto, Tsutomu (1995) Empty Subjects in Japanese: Experimental Evidence. CUNY Sentence Processing Supper Club, City University of New York.
4. 坂本勉 (1995) 統語解析と言語モジュール—空主語を含む文の処理に関して. 言語知識と認知インターフェイス 研究会, 慶應義塾大学.
5. 坂本勉 (1996) 言語知識のモジュール性と統語解析. Fukuoka Linguistic Circle (FLC), 福岡大学セミナーハウス.
6. 坂本勉 (1996) 言語知識のモジュール性: 統語解析の観点から. 京都大学言語学懇話会 第41回例会, 京都大学.
7. 坂本勉 (1997) 人間の言語理解について. 言語処理学会 第3回大会 パネルディスカッション, 京都大学工学部.
8. 坂本勉 (1997) 人間の言語情報処理: 心理言語学の観点から. 電子情報通信学会 思考と言語研究, 機械振興会館 (東京).
9. 坂本勉 (1997) 空主語文の理解における情報の種類とその統合プロセス. Fukuoka Linguistic Circle (FLC), 福岡大学セミナーハウス.
10. Sakamoto, Tsutomu (1999) Processing of Filler-Gap Constructions in Japanese. International East Asian Psycholinguistics Workshop, Ohio State University.
11. 坂本勉 (2000) 新たな言語心理学の創設に向けて: 言語学者からの意見と注文. 日本心理学会 第64回大会 ワークショップ #14「言語の認知心理学的研究はいかにあるべきか?」, 京都大学.
12. 坂本勉 (2000) 言語学者の視点から. 日本心理学会 第64回大会 ワークショップ#34「言語心理学と心理言語学の対話」, 京都大学.

13. 坂本勉 (2003) 文理解研究と言語理論. 日本英語学会 第21回大会シンポジウム, 静岡県立大学.
14. 坂本勉 (2003) 共感覚表現はどのように理解されるのか?—事象関連電位 (ERP) を指標として—. 神尾研究室 (九州大学人間環境学研究院) 主催 自閉症研究会.
15. 坂本勉 (2003) 言語知識のモジュール性—空主語文の統語解析を通して. 同志社大学大学院コロキウム統語解析セミナー, 同志社大学.
16. 坂本勉 (2007) 人間の言語処理における選択的遅延処理モデル—「ガ格連続文」の処理を中心に—. 言語処理学会 第13回年次大会, 龍谷大学.
17. 坂本勉 (2008) 言語理論と日本語. 西田龍雄先生傘寿記念リレー講演会「現代言語学の潮流と西田門下」, ユーラシア文化研究センター (羽田記念館).
18. 坂本勉 (2010) 特別講義 「言語心理学—失語症から見た言語運用の脳内メカニズム」. 第117回メンタルケア・スペシャリスト養成講座, 福岡市ももちパレス.

論文

単著／筆頭著者

1. 坂本勉 (1982) 慣用句と比喻—慣用化の度合の観点から. 『言語学研究』, 1, 1–21. 京都大学言語学研究室編.
2. Sakamoto, Tsutomu (1983) On Linguistic Classification of Metaphorical Expressions. *Descriptive and Applied Linguistics*, 16, 197–208. International Christian University.
3. Sakamoto, Tsutomu (1983) Toward Systematic Treatment of Synaesthetic Metaphor. *Kansai Linguistic Society (KLS)*, 3, 95–104.
4. Sakamoto, Tsutomu (1988) Semiotic Aspects of Reported Speech: Jakobson, Bakhtin and Some Cases in Japanese. *CUNY Forum*, 13, 90–114. City University of New York.
5. Sakamoto, Tsutomu (1989) Testability of Most Recent Filler Strategy in Japanese. *CUNY Forum*, 14, 180–185. City University of New York.
6. 坂本勉 (1990) 曖昧表現—その基本的性質と掛詞との関連について—. 『文林』, 25, 1–30. 松蔭女子学院大学 国文学研究室編.
7. Sakamoto, Tsutomu (1990) Metaphorical Manipulation of Classifiers in Japanese. In Osamu Sakiyama and Akihiro Sato (Eds.), *Asian Languages and General Linguistics*, 725–749. Tokyo: Sanseido. 『アジアの諸言語と一般言語学』, 崎山理・佐藤昭裕 (編) 三省堂.
8. 坂本勉 (1995) 構文解析における透明性の仮説—空主語を含む文の処理に関して. 『認知科学』, 2(2), 77–90.
9. 坂本勉 (1995) 日本語の制御文に関する覚え書き. 『人間科学』, 1, 31–41. 九州大学文学部 人間科学科編.

10. Sakamoto, Tsutomu (1995) Transparency between Parser and Grammar: On the Processing of Empty Subjects in Japanese. In Reiko Mazuka and Noriko Nagai (Eds.), *Japanese Sentence Processing*, 275–294. Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.
11. 坂本勉 (1997) 人間の言語情報処理: 心理言語学の観点から. 『電子情報通信学会技術研究報告』, 97(165), 1–15.
12. Sakamoto, Tsutomu and Matthew Walenski (1998) The Processing of Empty Subject in English and Japanese. In Dieter Hillert (Ed.), *Syntax and Semantics Vol. 31 Sentence Processing: A Crosslinguistic Perspective*, 95–111. San Diego: Academic Press.
13. Sakamoto, Tsutomu (2002) Processing Filler-Gap Constructions in Japanese: The Case of Empty Subject Sentences. In Mineharu Nakayama (Ed.), *Sentence Processing in East Asian Languages*, 189–221, Stanford: CSLI.
14. Sakamoto, Tsutomu, Kana Matsuishi, Hiroshi Arao, and Junri Oda (2003) An ERP Study of Sensory Mismatch Expressions in Japanese. *Brain and Language*, 86(3), 384–394.
15. 坂本勉 (2005) 擬人法または擬物法—あるいはラングとパロールの相剋—. 『文学研究』, 102, 1–20. 九州大学人文科学研究院 編.
16. 坂本勉 (2005) 言語研究の方法論に関する覚書. 『九州大学言語学論集』, 25/26, 241–253. 九州大学人文科学研究院言語学研究室 編.
17. 坂本勉 (2006) 言語学者が詩人と向き合う時—J. R. Firth による Swinburne の詩の分析—. 『文学研究』, 103, 75–81. 九州大学人文科学研究院 編.
18. 坂本勉・吉長美佳 (2006) 日本語における「ガ格連続文」の処理について. 『九州大学言語学論集』, 27, 1–36. 九州大学人文科学研究院言語学研究室 編.
19. Sakamoto, Tsutomu (2006) Processing Empty Categories in Japanese. In Mineharu Nakayama, Reiko Mazuka and Yasuhiro Shirai (Eds.), *The Handbook of East Asian Psycholinguistics*, 270–276. Cambridge: Cambridge University Press.
20. 坂本勉 (2009) 言語学者はなぜ『対称性』に興味を示さないのか?. 『認知科学』, 16(1), 142–147.
21. 坂本勉・安永大地 (2009) 二格動詞を含む関係節における処理負荷を増大させる原因について, 『電子情報通信学会技術研究報告』, 109(140), 27–32.
22. 坂本勉 (2010) 日本語の空主語文処理における格と意味役割: 実験課題における処理水準の相違. 『文学研究』, 107, 137–156. 九州大学人文科学研究院 編.
23. 坂本勉・荒生弘史・諏訪園秀吾 (2011) 自他動詞と格助詞の組合せに対する母語話者の容認性判断—異なる集団間の比較—. 『文学研究』, 108, 31–48. 九州大学人文科学研究院 編.
24. 坂本勉・安永大地 (2012) ガ格三連続文における有生性の影響について. 『ことばとこころの探求』, 大橋浩・久保智之・西岡宣明・宗正佳啓・村尾治彦 (編) 開拓社, 266–277.
25. 坂本勉 (2013) 日本語における自動詞と名詞句の結合違反について: 評定実験の結果を基に. 『文学研究』, 110, 71–92. 九州大学人文科学研究院 編.

共著

1. 織田潤里・二瀬由理・榊祐子・行場次朗・坂本勉 (1997) 両耳分離聴法による空主語判定プロセスの分析. 『認知科学』, 4(2), 58–63.
2. 荒生弘史・織田潤里・行場次朗・坂本勉 (1998) 和音の近親関係が P300 におよぼす影響について. 『人間科学』, 4, 1–10. 九州大学文学部 人間科学科 編.
3. 二瀬由理・織田潤里・榊祐子・坂本勉・行場次朗 (1998) 両耳分離聴法による空主語判定プロセスの分析(2)—語順の効果—. 『認知科学』, 5(1), 82–88.
4. 織田潤里・松石佳奈・荒生弘史・坂本勉 (1999) 事象関連電位による共感覚表現理解過程の分析. 『電子情報通信学会技術研究報告』, 99(487), 55–59.
5. 荒生弘史・諏訪園秀吾・坂本勉 (2003) 心的辞書における統語的側面 —文の自然さ評定による日本語他動詞の格選択特性の解析—. 『人文科学研究』, 113, 1–14. 新潟大学人文学部.
6. 榊祐子・二瀬由理・織田潤里・坂本勉・行場次朗 (2003) 両耳分離聴法による空主語判定プロセスの分析(3)—刺激呈示位置の効果—. 『認知科学』, 10(2), 319–325.
7. 大石衡聴・坂本勉 (2004) 統語解析の即時・遅延性の検証—P600 を指標として—. 『認知科学』, 11(4), 311–318.
8. Muraoka, Satoru, Toshio Matsuura, and Tsutomu Sakamoto (2006) On the Influence of Prosody in Processing Relative Clauses in Japanese. *Journal of Cognitive Science*, 7(2), 115–137.
9. 村岡諭・松浦年男・坂本勉 (2006) 日本語統語解析における顕在的韻律情報の影響. 『音韻研究』, 9, 75–82.
10. 安永大地・坂本勉 (2006) 日本語における遊離助数詞を含む文のオンライン処理について—事象関連電位を指標とした研究—. 『電子情報通信学会技術研究報告』, 106(164), 13–18.
11. Arao, Hiroshi, Shugo Suwazono, Tsutomu Sakamoto, and Tsutomu Nakada (2007) ERP Correlates of the Processing of Object-verb Integration in Japanese. In Tsutomu Sakamoto (Ed.), *Communicating Skills of Intention*, 319–336, Tokyo: Hituzi Syobo.
12. Muraoka, Satoru, Toshio Matsuura, and Tsutomu Sakamoto (2007) The Effect of Pitch and Pause in Processing Relative Clauses in Japanese. In Tsutomu Sakamoto (Ed.), *Communicating Skills of Intention*, 239–255. Tokyo: Hituzi Syobo.
13. Oishi, Hiroaki, Daichi Yasunaga, and Tsutomu Sakamoto (2007) Revision Process in Japanese Sentence Processing: Evidence from Event-Related Brain Potentials. In Tsutomu Sakamoto (Ed.), *Communicating Skills of Intention*, 367–381, Tokyo: Hituzi Syobo.
14. Tamaoka, Katsuo, Michiaki Matsumoto, and Tsutomu Sakamoto (2007) Identifying Empty Subjects by Modality Information: The Case of the Japanese Sentence-final Particles *-yo* and *-ne*. *Journal of East Asian Linguistics*, 16, 145–170.
15. Yasunaga, Daichi, Hiroaki Oishi, and Tsutomu Sakamoto (2007) Backward-Integration in Japanese: Evidence from Event-Related Brain Potentials. In Tsutomu Sakamoto (Ed.), *Communicating Skills of Intention*, 353–365, Tokyo: Hituzi Syobo.

16. Yasunaga, Daichi and Tsutomu Sakamoto (2007) On-line Processing of Floating Quantifier Constructions in Japanese: Using Event-Related Brain Potentials. *Journal of Japanese Linguistics*, 23, 21–34.
17. 松石佳奈・坂本勉 (2005) 比喩的解釈の神経生理学的基盤について. 『精神分析研究』, 49(1), 120–125.
18. 村岡諭・松浦年男・坂本勉 (2005) 統語解析時の再分析における顕在的韻律情報の影響. 『音韻研究』, 8, 57–64.
19. 翟勇・坂本勉 (2005) 中国語の空主語文処理について—文節ごとの読み時間における考察—. 『電子情報通信学会技術研究報告』, 105(170), 29–34.
20. 村岡 諭・松浦 年男・坂本 勉 (2008) 二種類の韻律情報が文の一時的曖昧性の解消に及ぼす影響, 日本音韻論学会 (編). 『音韻研究』, 11, 19–26. 東京: 開拓社.
21. Bise, Yu and Tsutomu Sakamoto (2010) Examination of Typing Mismatch Effect in Processing of Japanese *sika-nai* Construction. *IEICE Technical Report*, 110(163), 31–36.
22. 備瀬優・坂本勉 (2011) 日本語文処理における二重対格制約の心理的実在性について. 『人工知能学会 言語・音声理解と対話処理研究会 SIG-SLUD』, 62, 29–34.
23. 矢野雅貴・坂本勉 (2011) 日本語文の動詞予測プロセスにおける語順の影響について. 『人工知能学会 言語・音声理解と対話処理研究会 SIG-SLUD 62』, 23–28.
24. 矢野雅貴・備瀬優・坂本勉 (2011) 日本語において語順が文処理装置の文末動詞予測に及ぼす影響. 電子情報通信学会技術研究報告, 111(170), 31–35.
25. 伊藤益代・矢野雅貴・備瀬優・立山憂・坂本勉 (2012) 日本語における表層・深層照応文の処理過程について～事象関連電位を用いた研究～. 『電子情報通信学会技術研究報告』, 112(145), 7–12.
26. 立山憂・備瀬優・矢野雅貴・坂本勉 (2012) 「たとえ—ても」文の処理について～事象関連電位を指標として～. 『電子情報通信学会技術研究報告』, 112(145), 25–30.
27. Yano, Masataka, Yuki Tateyama, and Tsutomu Sakamoto (2014) Processing of Japanese Cleft Constructions in Context: Evidence from Event-Related Brain Potentials. *Journal of Psycholinguistic Research*.
28. Yano, Masataka, Yuki Tateyama, and Tsutomu Sakamoto (2015) Is Subject-Gap Preference Universal? An Experimental Study of Cleft Constructions in Japanese. *University of Pennsylvania Working Papers in Linguistics* 21(1).

解説・その他

辞書の項目

1. 坂本勉 (1999) 『心理学辞典』中島義明 (編) 有斐閣 「心理言語学 (Psycholinguistics)」他の20項目の分担執筆.

2. 坂本勉 (2002) 『認知科学辞典』日本認知科学会 (編) 共立出版 「言語理解 (language comprehension)」他の 11 項目の分担執筆.
3. 坂本勉 (2006) 『心理学総合事典』海保博之・楠見孝 (監修) 朝倉書店 11.2 「言語処理と統語解析」 pp.268–272.

雑誌連載

1. 坂本勉 (2001)
 - (1) 「文の理解—空主語文」 月刊『言語』30(9), 92–97. 大修館書店.
 - (2) 「文の理解—かき混ぜ文」 月刊『言語』30(10), 106–111. 大修館書店.
 - (3) 「文の理解—同格連続文」 月刊『言語』30(11), 100–105. 大修館書店.
 - (4) 「文の理解—中央埋め込み文」 月刊『言語』30(12), 98–103. 大修館書店.
 - (5) 「文の理解—袋小路文から再分析文へ」 月刊『言語』30(13), 110–117. 大修館書店.

文献解題

1. 坂本勉 (2001) 「英語学文献解題 第5巻 文法Ⅱ」 pp. 294–300.

科学研究費補助金研究成果報告書

1. 坂本勉 (1996) 『空主語を含む文の理解過程のリアルタイム分析』科学研究費補助金研究成果報告書 研究代表者 坂本勉 (九州大学文学部) .
2. 坂本勉 (2001) 『空主語処理プロセスの実時間分析』科学研究費補助金研究成果報告書 研究代表者 坂本勉 (九州大学文学部) .
3. 坂本勉 (2004) 『日本語の文理解に関する心理言語学的研究』科学研究費補助金研究成果報告書 研究代表者 坂本勉 (九州大学人文科学研究院) .

その他

1. 坂本勉 (1994) 「見えないモノを見る—構文解析の観点から」 月刊『言語』, 23(8), 116–119. 大修館書店.
2. 坂本勉 (1996) 「『ことば』と『こころ』の仕組み：言語のモジュール性をめぐって」 『三田評論』1996年7月号, 18–22. 慶應義塾大学.

研究発表

単独／筆頭発表

1. Sakamoto, Tsutomu (1982) On Linguistic Classification of Metaphorical Expressions. The 21st ICU Summer Institute in Linguistics, International Christian University.
2. Sakamoto, Tsutomu (1982) Toward Systematic Treatment of Synaesthetic Metaphor. 関西言語学会 第7回大会, 京都大学.
3. 坂本勉 (1984) 詩学の方法論. 京都大学言語学懇話会 第5回例会, 京都大学.
4. Sakamoto, Tsutomu (1989) Some Filler-Gap Relations in Japanese. The 1st CUNY Sentence Processing Conference. City University of New York.
5. 坂本勉 (1989) 日本語における埋め込み文中の空主語の理解について. 京都大学言語学懇話会 第21回例会 (第5回大会), 京都大学.
6. 坂本勉 (1992) 透明性の仮説について—日本語の統語解析の観点から—. 日本言語学会 第104回大会, 神田外語大学.
7. 坂本勉 (1993) 構文解析と心的文法: 日本語に於ける空主語の処理に関して. 対話研究会 第5回例会, 京都大学.
8. 坂本勉 (1994) 『言語』はどこにあるのか?—空主語を含む文のparsingをめぐって—. 九州大学言語科学研究会 第30回例会, 九州大学工学部.
9. 坂本勉 (1994) 日本語の空主語について—理論と実験—. 九州言語学研究会 第3回例会, 九州大学文学部.
10. Sakamoto, Tsutomu, Kana Matsuishi, Hiroshi Arao, and Junri Oda (2001) An ERP Study of Sensory Mismatch Expressions in Japanese. The Neurological Basis of Language, University of Groningen.
11. 坂本勉・玉岡賀津雄・松本充右 (2003) 空主語文の処理における終助詞「よ・ね」の機能に関して, 日本言語学会 第127回大会, 大阪市立大学.
12. 坂本勉 (2004) 共感覚表現の脳内処理モデル—事象関連電位 (ERP) による研究—, 京都大学21世紀COEワークショップ「心の働きの総合的研究・教育拠点」メタファへの認知的アプローチ.
13. Sakamoto, Tsutomu, Satoru Muraoka, and Toshio Matsuura (2005) Pitch and Pause in Detecting Left Clause Boundary in Japanese. International Workshop on the Interface between Prosody and Information Structure, Kobe University.
14. 坂本勉・安永大地 (2006) 遊離助数詞を含む文の処理における作動記憶容量の影響—事象関連電位を指標として—. 日本心理学会 第60回大会, 福岡国際会議場.
15. 坂本勉 (2008) 日本語における名詞句と動詞の統合過程に関する言語学的諸問題. 日本生理心理学会 第26回大会, 琉球大学.
16. 坂本勉・安永大地 (2009) ガ格三連続文の処理に有生性が及ぼす影響について. 日本言語学会 第138回大会, 神田外語大学.

17. 坂本勉・安永大地 (2009) ニ格動詞を含む関係節における処理負荷を増大させる原因について, 思考と言語研究会, 九州大学 21世紀プラザII.
18. Sakamoto, Tsutomu and Masataka Yano (2013) An ERP Study on Noun-Verb Integration Process in Japanese: Transitive-intransitive Correspondence. Kyushu University P&P Project Symposium, Ohashi Campus, Kyushu University.

共同発表

1. 二瀬由理・織田潤里・榊祐子・坂本勉・行場次朗 (1997) 空主語文における空主語判定プロセスの分析. 日本認知科学会 第14回大会, NTT基礎研究所(厚木).
2. 二瀬由理・織田潤里・榊祐子・坂本勉・行場次朗 (1997) 両耳分離聴法による空主語を含む文の理解過程の分析. 九州心理学会 第57大会, 鹿児島大学.
3. 荒生弘史・織田潤里・行場次朗・坂本勉 (1998) 和音の近親関係がP300におよぼす影響. 九州心理学会 第58回大会, 琉球大学.
4. 正法地あづさ・織田潤里・荒生弘史・坂本勉・行場次朗 (1998) 事象関連電位による共感覚表現の認知過程の分析. 日本認知科学会 第15回大会, 名古屋大学.
5. 榊祐子・織田潤里・二瀬由理・行場次朗・坂本勉 (1998) 両耳分離聴法による空主語判定プロセスの分析(3)—文聴取中のトップダウン処理—. 日本心理学会 第62回大会, 東京学芸大学.
6. 織田潤里・二瀬由理・榊祐子・行場次朗・坂本勉 (1998) 両耳分離聴法による空主語判定プロセスの分析. 九州大学言語科学研究会 第31回例会, 九州大学工学部.
7. 二瀬由理・坂本勉・織田潤里 (1999) 空主語文における統語処理と意味処理—実験課題と処理水準—. 九州大学言語科学研究会 第32回例会, 九州大学文学部.
8. 織田潤里・松石佳奈・荒生弘史・坂本勉 (1999) 事象関連電位による共感覚表現理解過程の分析. 電子情報通信学会 思考と言語研究会, 九州工業大学.
9. 松石佳奈・織田潤里・荒生弘史・坂本勉 (1999) 共感覚的比喩の認知過程の分析—事象関連電位を指標にして—. 日本心理学会 第63回大会, 中京大学.
10. 松石佳奈・織田潤里・荒生弘史・坂本勉 (1999) 共感覚的比喩の処理過程について—事象関連電位による分析—. 九州大学言語科学研究会 第32回例会, 九州大学文学部.
11. Ninose, Yuri, Tsutomu Sakamoto, and Junri Oda (1999) The Analysis of Sentence Processing with Empty Subjects in Japanese: The Difference among Levels of Processing Related to Experimental Tasks. The 2nd International Conference on Cognitive Science, Waseda University.
12. 織田潤里・大石衡聴・荒生弘史・坂本勉 (2000) 統語的逸脱と事象関連電位についての研究—動詞と目的語格助詞の適合性について—. 日本心理学会 第64回大会, 京都大学.
13. 今村亜子・坂本勉 (2001) プレリテラシー評価の視点. 日本心理学会 第65回大会, 筑波大学.
14. 大石衡聴・織田潤里・荒生弘史・坂本勉 (2001) 格助詞「を」と「に」と動詞の間の情報処理システムについて—事象関連電位を指標として—. 日本認知科学会 第18回大会, 公立はこだて未来大学.

15. 田中大輝・坂本勉 (2001) 項構造の再分析がもたらす文処理への影響について—2 項動詞と 3 項動詞の比較—. 日本認知科学会 第 18 回大会, 公立はこだて未来大学.
16. 今村亜子・坂本勉 (2002) 『擬似文字』から『文字』への移行メカニズム. 日本心理学会 第 66 回大会 於 広島大学.
17. 今村亜子・坂本勉 (2002) 機能性構音障害における音声置換. 日本言語学会 第 125 回大会, 東北学院大学.
18. 大石衡聴・坂本勉 (2002) 文末動詞の処理と文理解の関係—事象関連電位を指標として—. 日本心理学会 第 66 回大会, 広島大学.
19. 大石衡聴・坂本勉 (2003) 統語解析は即時処理か遅延処理か—P600 を指標として—. 日本認知科学会 第 20 回大会, 電気通信大学.
20. 今村亜子・坂本勉 (2003) 可逆事態文の理解方略の変化について—発達性表出性言語障害事例より—. 日本認知科学会 第 20 回大会, 電気通信大学.
21. 村岡諭・坂本勉 (2003) 日本語における節境界解析時の語彙情報の影響. 日本認知科学会 第 20 回大会, 電気通信大学.
22. 村岡諭・坂本勉 (2003) 解析装置と格助詞の情報との関係. 日本英語学会 第 21 回大会シンポジウム, 静岡県立大学.
23. 荒生弘史・諏訪園秀吾・坂本勉 (2004) 心的辞書における統語的情報—日本語他動詞の格選好特性の解析—. 日本認知科学会 第 21 回大会, 日本科学未来館.
24. 大石衡聴・安永大地・坂本勉 (2004) オンラインでの依存関係の確立について —事象関連電位による検証—. 日本認知科学会 第 21 回大会, 日本科学未来館.
25. 村岡諭・坂本勉 (2004) 統語解析における節境界設定時の語彙情報の影響. 日本認知科学会 第 21 回大会, 日本科学未来館.
26. 安永大地・大石衡聴・坂本勉 (2004) 日本語におけるかき混ぜ文の処理負荷に関する考察. 日本認知科学会 第 21 回大会, 日本科学未来館.
27. 村岡諭・松浦年男・坂本勉 (2004) 顕在的韻律情報と統語解析の関係—ピッチのリセット位置と左側節境界設定の関係—. 音韻論フォーラム 2004, 広島女学院大学.
28. Matsuura, Toshio, Satoru Muraoka, and Tsutomu Sakamoto (2005) Pitch Contour Information and Reanalysis on Processing Relative Clauses in Japanese. International Symposium on Communication Skills of Intention, Aso Rehabilitation College.
29. Muraoka, Satoru, Toshio Matsuura, and Tsutomu Sakamoto (2005) Temporal Information and Pitch Contour Information in Processing Relative Clauses in Japanese. Phonology Forum, Fukuoka University.
30. 村岡諭・坂本勉 (2005) 目的語名詞句の解析における格助詞の影響. 日本言語学会 第 131 回大会, 広島大学.
31. Oishi, Hiroaki and Tsutomu Sakamoto (2005) Revision Process in Japanese Sentence Processing: Evidence from Event-Related Brain Potentials. International Symposium on Communication Skills of Intention, Aso Rehabilitation College.

32. Yasunaga, Daichi, Hiroaki Oishi, and Tsutomu Sakamoto (2005) Backward-Integration in Japanese Parsing: Evidence from Event-Related Brain Potentials, International Symposium on Communication Skills of Intention. Aso Rehabilitation College.
33. 大石衡聴・安永大地・坂本勉 (2005) 統語解析器の再分析における処理の選好性について. 日本言語学会 第 131 回大会, 広島大学.
34. 安永大地・坂本勉 (2005) オンラインにおける要素間の依存関係の確立について—事象関連電位による検証—. 日本認知科学会 第 22 回大会, 京都大学.
35. 翟勇・坂本勉 (2005) 中国語の空主語文処理について—文節ごとの読み時間における考察—. 電子情報通信学会 思考と言語研究会(TL), 九州大学.
36. 翟勇・坂本勉 (2005) 文理解における動詞情報の即時性に関する考察—中国語の空主語文を通して—. 日本言語学会 第 131 回大会, 広島大学.
37. 安永大地・坂本勉 (2006) 日本語における遊離助数詞を含む文のオンライン処理について —事象関連電位を指標とした研究—. 電子情報通信学会 思考と言語研究会, 東京大学.
38. Matsuura, Toshio, Satoru Muraoka, and Tsutomu Sakamoto (2007) On the Role of Phonological Phrasing in Processing Left Clause Boundary in Japanese. The 2nd International Workshop on the Interface between Prosody and Information Structure, Kyushu University.
39. 村岡諭・松浦年男・坂本勉 (2007) 関係節の処理における顕在的韻律情報の役割. 日本言語学会 第 134 回大会, 麗澤大学.
40. 安永大地・坂本勉 (2007) 数量詞と名詞句との依存関係の統語処理過程について. 日本言語学会 第 134 回大会, 麗澤大学.
41. Yasunaga, Daichi and Tsutomu Sakamoto (2007) Dependency Establishment Process: Numeral Quantifier and its Host-NP in Japanese. International Conference on Processing Head-final Structures, Rochester Institute of Technology.
42. 翟勇・坂本勉 (2007) 中国語の空主語文処理について—第 1 言語習得の視点から—. 日本認知科学会 第 24 回大会, 成城大学.
43. Zhai, Yong and Tsutomu Sakamoto (2007) The Developmental Change of Strategies in Processing Chinese Control Sentences. International Conference on Processing Head-final Structures, Rochester Institute of Technology.
44. 隈上麻衣・翟勇・坂本勉 (2008) 日本語における空主語文の処理方略について—児童の言語習得の視点から—. 日本言語学会 第 136 回大会, 学習院大学.
45. 翟勇・隈上麻衣・坂本勉 (2008) 言語発達における文処理方略の移行—日本人小学生の空主語文処理に着目して—, 日本心理学会 第 72 回大会, 北海道大学.
46. 翟勇・坂本勉 (2008) 中学生における中国語空主語文処理. 日本中国語学会 第 58 回大会, 京都外国語大学.
47. Oishi, Hiroaki and Tsutomu Sakamoto (2009) Immediate Interaction between Syntactic and Semantic Outputs: Evidence from Event-Related Potentials in Japanese Sentence Processing. CUNY 2009, UC Davis.

48. 翟勇・隈上麻衣・坂本勉 (2010) 日本人小学生の空主語文処理プロセス. 言語処理学会第 16 回年次大会, 東京大学.
49. Bise, Yu and Tsutomu Sakamoto (2010) Examination of Typing Mismatch Effect in Processing of Japanese *sika-nai* Construction. 思考と言語研究会・MAPLL (Mental Architecture for Processing and Learning of Language, 機械振興会館, 東京.
50. 備瀬優・坂本勉 (2010) 譲歩文の処理における副詞の効果について. 日本言語学会 第 140 回大会口, 筑波大学.
51. 備瀬優・坂本勉 (2010) 琉球方言における係り結びの理解過程—事象関連電位(ERP)を用いた依存関係処理モデル研究. The 2nd Workshop on Ryukyuan Languages and Linguistic Research ナイトセッション.
52. 備瀬優・坂本勉 (2010) Wh 疑問文における依存関係の処理は wh 語の再活性化をもたらすか?. 日本心理学会 第 74 回大会, 大阪大学.
53. 備瀬優・坂本勉 (2010) 否定呼応違反に関する事象関連電位について—シカナイ構文の検討. 日本言語学会 第 141 回大会, 東北大学.
54. 矢野雅貴・備瀬優・坂本勉 (2011) 日本語において語順が文処理装置の文末動詞予測に及ぼす影響. 思考と言語研究会, 広島大学東広島キャンパス.
55. 備瀬優・坂本勉 (2011) 二重対格制約に関する心理言語学的考察—事象関連電位を指標として—. 日本認知科学会 第 28 回大会, 東京大学.
56. 矢野雅貴・備瀬優・坂本勉 (2011) 日本語の文処理における動詞予測に関わる情報について—語順の問題を中心にして—. 日本認知科学会 第 28 回大会, 東京大学.
57. 備瀬優・坂本勉 (2011) 日本語文処理における二重対格制約の心理的実在性について. 人工知能学会 言語・音声理解と対話処理研究会 SIG-SLUD 第 62 回研究会, 九州工業大学.
58. 矢野雅貴・備瀬優・坂本勉 (2011) 日本語文の動詞予測プロセスにおける語順の影響について. 人工知能学会 言語・音声理解と対話処理研究会 SIG-SLUD 第 62 回研究会, 九州工業大学.
59. 伊藤益代・備瀬優・矢野雅貴・坂本勉 (2011) 格標識付き *stripping* 構文における照応の理解過程—事象関連電位を用いた研究—. 日本言語学会 第 143 回大会, 大阪大学豊中キャンパス.
60. 矢野雅貴・備瀬優・坂本勉 (2011) 日本語において語順が文処理装置の文末動詞予測に及ぼす影響. 思考と言語研究会・MAPLL2011・言語と認知の脳科学プロジェクト研究センター共催, 広島大学.
61. 伊藤益代・矢野雅貴・備瀬優・立山憂・坂本勉 (2012) 日本語における表層・深層照応文の処理過程について～事象関連電位を用いた研究～. 思考と言語研究会・MAPLL2012・言語と認知の脳科学プロジェクト研究センター共催, 山形大学.
62. 立山憂・備瀬優・矢野雅貴・坂本勉 (2012) 「たとえ—ても」文の処理について～事象関連電位を指標として～. 思考と言語研究会・MAPLL2012・言語と認知の脳科学プロジェクト研究センター共催, 山形大学.
63. ストランビーニ ニコーラ・備瀬優・矢野雅貴・坂本勉 (2012) 大きさと関連する音象徴について. 日本認知科学会 第 29 回大会, 仙台国際センター.

64. 立山憂・矢野雅貴・坂本勉 (2013) 依存関係の構築における予測処理について—ERP を指標とした日本語譲歩文の研究—. 日本言語学会 第 146 回大会, 茨城大学.
65. 立山憂・矢野雅貴・矢野舞子・坂本勉 (2013) 日本語における gap-filler 依存関係の構築について. 公開ワークショップ 脳波から見えてくる文理解研究の諸相, 九州大学箱崎キャンパス.
66. 矢野雅貴・坂本勉 (2013) 日本語における意味的再分析処理—ERP を用いた研究—. 公開ワークショップ 脳波から見えてくる文理解研究の諸相, 九州大学箱崎キャンパス.
67. 矢野雅貴・備瀬優・坂本勉 (2013) 自他対応動詞における名詞句との照合プロセス—ERP による検証—. 公開ワークショップ 脳波から見えてくる文理解研究の諸相, 九州大学箱崎キャンパス.
68. 矢野雅貴・立山憂・坂本勉 (2013) gap-filler 依存関係の処理について—ERP を用いた日本語分裂文の研究—. 日本言語学会 第 146 回大会, 茨城大学.
69. 矢野雅貴・立山憂・坂本勉 (2013) 日本語のアスペクト強制におけるオンライン処理について—事象関連電位を指標とした意味的再分析の研究—. 言語科学会 第 15 回年次国際大会, 活水女子大学東山キャンパス.
70. Yano, Masataka and Tsutomu Sakamoto (2013) Two Types of Semantic Mismatch in Japanese Sentence Processing: Evidence from ERP. Kyushu University P&P Project Symposium, Ohashi Campus, Kyushu University.
71. Yano, Masataka, Yuki Tateyama, and Tsutomu Sakamoto (2014) Is Subject-Gap Preference universal? An Experimental Study of Cleft Constructions in Japanese. The 38th Annual Penn Linguistics Conference, University of Pennsylvania.
72. Yano, Masataka, Yuki Tateyama, and Sakamoto (2014) The Functional Dissociations between Semantic Repair and Revision Processes in Japanese: Evidence from Event-Related Potentials. Linguistic Evidence 2014: Empirical, theoretical and computational perspectives, University of Tübingen, Germany.
73. 矢野雅貴・立山憂・坂本勉 (2014) 日本語分裂文の ERP 研究—使役形を用いた検討—. 日本言語学会 第 148 回大会, 法政大学.
74. Yano, Masataka, Yuki Tateyama, Yoan Kim, and Tsutomu Sakamoto (2014) An ERP Study of Japanese Causative Cleft Constructions in Context. The 36th Annual Meeting of the Cognitive Science Society (CogSci2014), Centre des congrès de Québec, Canada.

坂本 勉先生 御略歴および御業績

2014年9月27日発行

発行：九州大学 大学院人文科学研究院 言語学研究室

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-19-1

印刷：(株)サガプリンティング